

侵攻即時停止を命令

国際司法裁判、ロシアに

【ベルリン＝桑野白馬】「国際法に関する非常に深刻な問題を提起している」とも述べました。

国際司法裁判所（ICJ）は16日、オランダ・ハーグの法廷でロシアのウクライナ侵攻に関する審理を開き、ロシアのウクライナへの侵攻を即時停止するよう命じる仮保全措置を出しました。ロシアによる軍事侵攻が始まった直後の2月26日、ウクライナがICJに提訴していました。

ICJの判断歓迎 国連総長

措置には法的拘束力があ

るものの、ロシア側は訴訟を「明らかに不条理」として口頭審理を欠席しており、軍事行動をやめる可能性は低いと見られます。

ICJは、ロシアの侵攻で「人命が失われ、人々が苦しみを続けていることを強く懸念している」と表明。

ロシアによる武力行使は「ロシアによる武力行使は」

「この戦争はやめねばならぬ」と指摘しました。

長は16日、国際司法裁判所（ICJ）がロシアによるウクライナ侵略について即時停止させる仮保全措置を命じたことをめぐり、ツイッターで「私が繰り返し行ってきた平和を求めるアピールを全面的に強化するものだ」と歓迎しました。

「この戦争はやめねばならぬ」と指摘しました。

「この戦争はやめねばならぬ」と指摘しました。